



▲情報処理の授業



国際医療福祉大学リハビリテーション学部
 事務部(総務・管理)課長 森 俊治さん

国際医療福祉大学
 リハビリテーション学部開校
 社会に開かれた大学をめざして



四月九日、国際医療福祉大学リハビリテーション学部が大川市に開校した。

国際医療福祉大学は、本校が平成七年に栃木県大田原市に開学。保健、医療福祉二学部八学科を擁している。本年度からは薬学部も加わる。開学以来十年間、「人間中心の大学」、「社会に開かれた大学」、「国際性を目指した大学」の基本理念の元、人材育成に力を注ぎ、保健医療福祉の指導的立場になる卒業生を社会に送り出してきた。ちなみに理学療法学科国家試験は、六年連続の一〇〇%合格(全国平均九七・九%)、作業療法学科で九八・九%(全国平均九五・五%)という優れた実績を上げてきた。

そして、このたび大川市に理学療法学科、作業療法学科を併せ持つリハビリテーション学部が開設されるに至った。両学科を擁する四年制の私立大学としては九州初である。魅力的なキャンパスと最新の教育設備は目を引く。四階建ての講義・実習棟と三階建ての図書館・講堂棟からなっている。

森俊治課長にリハビリテーション学部についてお話を伺った。

■リハビリテーション学部が大川市開校に至った経緯を教えてくださいませんか。

「私たちは、大川市での開校を「第二の開学」と位置づけ、大変重要視しています。九州のみならず、西日本の医療をリードしつつ、新しい時代のリハビリテーション医療向上に貢献できる専門家、研究者の育成を目指しています。」

確かに当初は利便性に富む福岡市や柳川市開校の話もあったのですが、最終的には母体組織「高邦会」の最初の施設、高木病院発祥の地であり、大川市出身の高木理事長の強い思い入れもあり、大川市に決まりました。

理事長の高木は、開校式の挨拶でも述べたように、この開校が大川市、そして地域経済の発展に資することを強く願っています。」

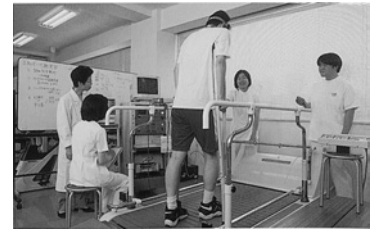
■大学の特色を教えてください。

「一つは、臨床教育です。近隣には、臨床医学研究センターとして高邦会グループの高木病院、隣市の柳川市にある柳川リハビリテーション病院、みずま高邦会病院もあります。新入生は最初の段階から、これらの施設で、病気や障害を持つ方と直接触れ合いながら、

リハビリテーション学部



▲英会話の授業



理学療法学科

心と知識と技術をあわせ持つ
リハビリテーション専門職を育成します

人間としての基本的な動作を取り戻すリハビリテーションを担い、障害を持つ人々の「人生の質＝QOL(Quality Of Life)」を高める理学療法士。少子高齢化時代を迎え、病院や施設だけでなく、在宅医療・地域保健・福祉の分野にも活躍の場が広がっています。理学療法学科では、基礎的な科目に重点を置き、理学療法の基本及び基礎知識・技術を徹底指導。同時にコミュニケーション能力の向上も重視し、人の痛みを理解できる心を持った専門職を育成します。

作業療法学科

障害を持つ人の自立と社会復帰を支える
熱意あるスペシャリストを育てます

日常の応用的動作の訓練、創作活動や余暇活動などを通して、身体障害や精神障害などを抱えるすべての人々の自立や社会復帰を支援する作業療法士。本学科では、病院や施設から地域・家庭でのリハビリまで高度で幅広い作業療法の学習を行い、障害を持つ人々の視点に立った援助が行える専門職を育成します。専門教育を6つの科目群に体系化するほか、病院や施設での実習科目も多数開講。専門職としての資質を効率よく習得できるカリキュラムです。

実践的な教育を受ける恵まれた環境にあると思います。」

■実践的な教育環境は素晴らしいですね。

「そうですね。それに学生達は、患者様との触れ合いを年間続けることにより、彼らのコミュニケーション力、そして医療従事者としてのモチベーションを養えます。患者様自身のやる気を保たせていただくには、理学療法士、特に作業療法士の粘り強いメンタル力が求められています。この点、専門的技術だけでなく、人間性の育成にも役立つ臨床教育は大きなアドバンテージがあると思います。」

■なるほど。では他にどんな特色があるのでしょうか。

「情報科学技術に強い医療専門家を育成する点でしょうか。今後電子カルテ、レセプトのデータ化などIT化が一層進んでいくことが考えられています。本校では、パソコンは学生一人一台体制です。その面でもエキスパートになれるよう教育を進めます。」

■時代に即した情報科学技術教育に力を入れておられるわけですね。さらに今後に向け、何らかの計画がありますか。

「言語聴覚学科の増設を視野

に入れております。」

■そうすると、リハビリテーション学部はますます充実しますね。ところで、今年の新生が102名、四学年そろって400名以上になります。新しい学科が加えられると、600名以上になるわけですね。若者たちが増えることは、地元にとっても嬉しいことですね。

「そうですね。新入生たちは全国から集まっています。例えば、広島から3名、沖縄から3名、千葉から3名、神奈川県、長野、愛知からも…。ただ、残念なことに大川市にワンルームマンションなどの住居が少ないようで、柳川などに居を構える学生も少なくないようです。でも、来年は多くの方々が見学に来られるので、住居を造る計画があると聞いています。そうならば、地元経済にとってもいいことではないでしょうか。学生一人が地域に投下する経済効果は一ヶ月あたり約十二万円とのデータもありますから、賃貸住居の増加はこちらからは是非お願いしたいところです。」

■さて、基本理念の一つに「社会に開かれた大学」があります。この点でどんな活動を考えて

おられるのでしょうか。

「図書館や六〇〇人収容の講堂の利用を考えています。図書館は近い将来市民の皆さんが気軽に利用できるよう検討しています。図書館の蔵書は一万冊前後になると思っています。」

■そうですね。

「それに、どなたでも自由に参加できる公開講座を実現したいですね。栃木本校の場合、たとえば、五月末から七月初めにかけて、フジテレビキャスター黒岩祐治さんプロデュースの公開講座(七回)を実施しました。テーマは『命の社会学』でした。拉致問題を扱った回は特に盛況でした。更にイブニングタイム公開講座として、同じ期間に全八回の『高齢者の健康増進―運動の重要性』の講座を実施しています。それに加えイングリッシュ・イブニングと銘打って、初心者・初級・中級・上級のコースに分かれて本校の教員と英会話を楽しむ講座も実施しています。大川でも同様の講座ができればと思っています。」

■今後が楽しみですね。今日はありがとうございました。